

実施、評価の一本化を図る。

二 指導内容の精選・構造化を図る

- (一) 多様化した生徒の実態を踏まえ、基礎的・基本的な内容を精選し、生徒の学習効果があがるよう教材の構造化を図る。
- (二) 生徒の思考過程を重視した学習をより有効にするため、学習に適切な資料を準備するとともに写真・図版・統計等の活用について配慮する。

三 学習指導法の研究と授業の充実に努める

- (一) 生徒の能力・適性・進路等がますます多様化しているので、指導の個別化、学習の個性化の観点から、生徒を積極的に学習に参加させる指導方法を工夫し、その実践に努める。その際、資料や教育機器などの活用場面を工夫し、生徒の理解や思考が一層深まるような指導法の改善に努める。
- また、評価の在り方は特に情意面の評価について研究を深める。

四 学習指導要領の趣旨に即して「現代社会」の指導に一層努める

- (一) 生徒の実態に即し、身近で具体的な事象を教材化して思考力や判断力を養う。
- (二) 生徒の問題意識を喚起し、学習内容を生徒の課題意識まで高める。
- (三) 選択科目との有機的関連を一層図

るよう研究を深める。

数 学

指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的な知識や技能の習得を図るとともに、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な考え方や処理の仕方をも身に付けさせるとともに、一層の学力向上を図るため、次のことに努力する必要がある。

一 生徒の実態に応じて学習内容を焦点化し、教材の精選を図る

- (一) 生徒の実態に応じて適切な科目を履修させ、適切な教科書を選択する。
- (二) 生徒の実態に応じて学習内容を焦点化し、教材を精選することにより、ゆとりある充実した学習をさせるようにする。この際、各項目の内容相互の関連を図るとともに、学習内容の系統性に留意して教材の構成を効果的なものにする。

二 学習指導法や評価の在り方を改善し、学習意欲を高めて基礎学力の定着を図る

- (一) 学習目標を明確にし、その目標達成の度合いを個に応じて十分把握できるよう、個人内評価や情意面の評価を取り入れる。このことにより、課題意識を明確にさせ、学習への意欲を喚起する。

- (二) 指導の個別化を図り、生徒一人一人の補充、深化、発展の学習を促し、自主的に学習する態度を育成するとともに、基礎学力の定着を図り、併せて個性の伸長を図る。
- (三) 学習に作業を取り入れることや、教育機器、コンピュータの利用などにより数学に対する興味、関心を高めさせて主体的な学習を促し、基礎学力の定着を図る。

三 数学的な考え方、処理の仕方をも身に付けさせる

- (一) 基礎的な知識や技能の習得を図るとともに、基本的な概念や原理、法則の理解を深めさせて、これらが問題解決に生かされるようにする。
- (二) 帰納、類推、演えきなどの論理や、より高い立場から見直し、いくつかの領域の事項を関連付け体系化してゆく、数学的な手法を理解させる。
- (三) 具体的な事象は、理想化、抽象化、条件付け等がなされて数学の舞台にのせられ、数学的な手法によって処理され、解決される。このことを身のまわりの多くの具体例を通して理解させる。

四 指導の内容・方法について十分に中学校との関連付けを図る

- (一) 中学校数学との関連付けに努める。補充・定着を図る指導については、内容や時期について、集中的に行うか、高等学校の学習内容との関連で

必要に応じて行うか、生徒の実態や教材の内容に即して適切な方法を講じる。

- (二) 特に、中学校数学の補充・定着を図る指導については、効果的なものとするため、教科担当者間の十分な共通理解を図る。

理 科

学習指導要領の趣旨を踏まえ、高等学校理科の目標を達成するため、次の事項について努力することが望まれる。

一 各科目の目標を正しく促え、生徒の実態に即した教材の精選と構造化を図り、より具体的な指導計画の作成に努める

- (一) 指導計画の作成に当たっては、次の点に努める。
 - ① 観察・実験などを行い、自然を探究する能力・態度を育成する。
 - ② 自然の事物・現象についての基本的な科学概念の理解を図る。
 - ③ 多様な教材と組み合わせて、適宜コンピュータの活用を図る。
- (二) 各科目の学習内容の精選と構造化に当たっては、生徒の学習到達状況を的確に把握し、更に、中学理科と高校の理科との関連を十分に配慮して行うように努める。
- (三) 科目の履修に当たっては、幅広い